

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日：

事業所名：児童発達支援 HANAFUKU

対象人数（保護者）15人 回答者数 12人 回収 80%

		チェック項目	はい	どちらともい	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になさ	11	1			バリアフリーに関しては、当事業所は2階にあるため、構造上難しくなっています。また、現在肢体不自由のお子さまの利用はありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12				
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12			いつも子供の特性や身体の状態に合わせた取り組みをしてくださっています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12				
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	1			活動プログラムが固定化・マンネリ化しないよう、常に新しい要素を取り入れる工夫を行っています。お子さま一人ひとりの興味・関心・目標に合わせたオーダーメイドのプログラムの作成に努めています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9		3		療育時間が45分と短いため、他施設との交流や地域活動にかけられる時間が限られ、準備や移動、活動本体を十分に行えません。
保護者	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	3	4		保護者セミナーなどの開催を行っています。また、支援中にお子さまの様子を見ながらアドバイスなど行っています。ペアレントトレーニングはまだ未実施ですが今後行う予定です。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12			いつもLINEで丁寧に様子を教えていただいて、安心しています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	1			保護者の日頃の様子や変化など観察しながら、定期的に面談や相談を行っています。必要であれば家族支援や子育てサポート支援を行います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1			利用者一人ひとりの思いや、状況に寄り添い、共感的な態度で支援を行っています。信頼関係の構築を重視し、利用者の気持ちを尊重した対応を心掛けています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	5	4		現在交流はありませんが、今後機会があれば保護者会の開催を検討したいと思っています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	3			保護者からの相談を受け付ける体制は整備されているものの、その内容が十分に周知されていないので、相談窓口となる職員を明確にしていきたいと思っています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12				

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1		SNSやホームページ、連絡帳にて公表しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12			
非常時	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1		契約時にご説明しております。また、年間の研修スケジュールにて、発生を想定した訓練を実施を計画的に行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	2		半年に1回以上の避難訓練等を実施しています。また、同施設内では、月1回色々な想定での訓練を行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1		事故等、（怪我など）が発生した際は、SNSの連絡ツールにて速やかに連絡をしています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12		少しずつできることが増え自信がついてきています。 とても楽しみに通っているので、安心しています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12			
	29	事業所の支援に満足していますか。	12		いつもありがとうございます。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人花畑福祉会 HANAFUKU		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 18日 ～ 2025年 4月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年 4月 18日 ～ 2025年 4月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、感覚統合に基づいた支援を行っており、感覚統合の遊具を活用してお子さまの感覚や運動機能の発達を促しています。スウィングやトランポリン、バランス遊具などを用いた活動を通じて、楽しみながら体の動かし方や感覚の調整力を育みます。	感覚統合遊具を活用し、お子さま一人ひとりの発達の段階や状態に応じた活動を計画・実施。安全面への配慮や、活動の楽しさを重視しながら、適切な感覚刺激が得られるよう工夫しています。	個々の発達段階に応じた支援内容のさらなる充実を図るため、定期的にプログラムの見直しを行い、感覚統合だけでなく認知、言語面へのアプローチも含めたバリエーション豊かな支援を目指します。
2	個別支援を中心に、お子さま一人ひとりの発達の段階や特性に合わせた丁寧な支援を提供しています。加えて、小グループでの取り組みや集団活動の練習にも力を入れており、他者との関わりや社会性を育む機会を大切にしています。	個別支援では、お子さまの特性・課題に合わせた支援を提供し、小集団活動では社会性やコミュニケーションの練習を目的に、少人数で安心して取り組める構成としています。	個別や小集団における課題の明確と、楽しさや達成感を感じられる構成の工夫を進め、参加意欲を高められるよう取り組みます。活動中の役割分担や関わりの機会を増やすことで、社会性の発達をさらに支援します。
3	施設内は広い運動スペースと机上課題などに集中できる静かな部屋に分かれており、活動の目的に応じて環境を使い分けることで、より効果的な支援が可能です。お子さまが安心してのびのびと過ごせる環境作りを大切にしています。	運動のスペースと机上課題の部屋を分けることで、「活動の切り替え」がしやすく、集中して取り組める環境を整えています。視覚的サインや声掛けを活用し、スムーズな移行を促しています。	環境面では、活動スペースの使い方や動線を見直し、お子さまがより安心して活動出来るよう整備を進めます。また、保護者アンケートや意見を踏まえたサービス改善にも積極的に取り組んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学後、放課後等デイサービスへのスムーズな移行が難しいケースがあり、地域の受け入れや支援内容とのマッチングに課題があります。保護者の不安も大きく、関係機関との連携強化が求められています。	放課後等デイサービスの受け入れが地域に限られており、希望するサービスが見つからない場合があります。また、受け入れ枠が不足している場合も多く、就学後にスムーズな移行が出来ないことが課題です。	事業所間での情報共有を強化し、地域の放課後等デイサービスの空き状況や支援内容を把握しておくことが重要です。また、事前に利用可能な施設を確認し、移行先の選定をスムーズに行えるようにします。
2	保育園や、幼稚園との情報共有や連携が十分でない場合があります。特にお子さまの発達状況や支援方法に関する情報交換が不足がちです。	要因として、保育園や幼稚園側との情報共有のタイミングや頻度が不十分であることが挙げられます。	保育園や幼稚園との定期的な情報交換を促進し、各お子さまの発達状況や支援内容、個別のニーズについて詳細に共有します。特に、お子さまが家庭や園でどのように過ごしているのか、どのような支援が必要かを把握するため連絡帳やコミュニケーションツールを活用します。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人花畑福祉会 HANAFUKU				公表日		2025 年 5 月 8 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	☐		広々としたプレイルームと、指導訓練室があるので、適切な基準で行っています。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	☐		児童の人数に応じて、適切な職員の人数を配置しています。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	☐		運動を行う部屋、机上課題を行う部屋が分かれており、物を置く場所は構造化しています。	バリアフリーに関しては、当事業所は2階にある為、構造上難しくなっております。また、現在肢体不自由のお子さまの利用はありません。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	☐		毎日の清掃、消毒等は行っております。また、こまめな換気、空気清浄機等を利用しています。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	☐		パーティションで区切る等の環境を整えています。また、静養室もあるので、配慮した環境を整えています。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	☐		利用児童の振り返りや、打ち合わせ等を出動した全職員で行っています。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐		保護者の回答に対し、不明点、不安点等に対しての解消を図ります。また、職員全体で共有して改善に繋げていきます。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐		定期的に行う職員会議を始め、毎日の振り返り等で機会を設け業務改善に繋げています。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	☐			必要に応じて適切に対応します。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	☐		事業所内、法人内での研修を設け参加しております。				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	☐		個別支援計画をもとに、個にあった支援プログラム、または小グループの支援プログラムを作成しています。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	☐		児童発達支援管理責任者や指導員とともに、保護者のニーズに応じて計画を作成しています。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	☐		児童発達支援管理責任者とともに指導員から見た発達状況を分析し、児童の最善の利益を考慮して行っています。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	☐		個別支援計画書のもと、支援記録等を用いながら支援しています。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	☐		児童の発達段階に応じて指導計画を立案し、支援しています。状況に変化があった際には、その都度対応しています。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	☐		児童の特性により、子どもの育ちに必要な支援を5領域に沿って設定しています。また、連携支援として、保護者様の許可を得たうえで保育園等との共有を行っています。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	☐		定期的に行う職員会議で、立案、改善を行います。				

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	☐		都度、児童の進捗具合を確認しながら変更を行っています。必要に応じて小グループも取り入れ、集団での練習を取り入れてます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	☐		基本個別で行っておりますが、活動の中に小グループも取り入れて活動をおこなっています。その成長に応じて計画書計画書を作成し、目標にむかって支援していきます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	☐		支援前には必ず職員間で打ち合わせを行い、引継ぎや役割分担の確認を密に行います。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	☐		支援終了後に、一人一人の記録を行い、その際振り返りや気付きを共有しています。また、その場にはいない職員も共有出来るよう、共有事項の記録を取っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	☐		都度、支援記録を残しています。また、日々の振り返りや、気付きを共有し改善しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	☐		定期的に、保護者と面談を行い、ニーズに応じて児童発達支援計画の見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	☐		家族面談にて保護者のニーズを伺いながら支援を行い担当者会議など開かれた際には、積極的に参加します。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	☐		より良い支援を提供することが出来るよう、支援目標を一致させるため関係機関との連携を図ります。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	☐		家族面談にて保護者のニーズを伺いながら支援を行い担当者会議など開かれた際には、積極的に参加します。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	☐		保護者のニーズに併せて対応をしています。必要時には、就学前の提出書類において、作成のお手伝いをして小学校への申し送りが出来るようにしていきます。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				機会があれば参加します。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	☐			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	☐			現在交流はありませんが、今後機会があれば検討していきたいと思っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	☐		お迎え時や、連絡帳等でのやり取りで細かくお伝えしています。また、連絡ツールとして、公式ラインにて気軽に連絡が取れるよう配慮しています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	☐		保護者セミナーなどの開催を行っています。また、支援中にお子さまの様子をみながらアドバイスなどを行っています。	ペアレントトレーニングはまだ未開催ですが、今後行っていく予定です。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	☐		契約時に担当職員が丁寧に説明させていただいています。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	☐		保護者と面談を行い、ニーズに応じて児童発達支援計画を作成しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	☐		保護者に計画書を提示しながら、児童発達支援計画を同意のサインをいただいております。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	☐		保護者の日頃の様子や変化など観察しながら、定期的に面談や相談を行っています。必要であれば家族支援や子育てサポート支援を行います。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		☐		現在交流はありませんが、今後機会があれば検討していきたいと思っています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	☐		苦情や助言があった場合は迅速かつ適切に態勢を整え対応します。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	☐		HPやSNSなどを活用し、情報を発信していきます。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	☐		鍵付きの棚保管しております。また、個人情報書類等はシュレッターにて破棄しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	☐		構造化されており、そのほかにも、必要に応じて意思表示カードや資格情報で分かるように情報伝達をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		☐		現在交流はありませんが、今後機会があれば検討していきたいと思っています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	☐		契約時に担当職員が丁寧に説明させていただいています。また、職員間でも研修等を通し共有しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	☐		BCPを策定し、法人内で行われている様々な訓練も参加しています。また、定期的に研修を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	☐		契約時のフェイスシートでの確認や、日頃から保護者との情報共有を密にとり、情報を確認しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	☐		おやつ提供は行っておりません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	☐		法人内の月1回行われる訓練に参加しています。また、研修もあわせて行った上で、それを活かし支援を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	☐		契約時に丁寧に説明を行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	☐		ケガ、事故等があった際にはヒヤリハットを作成し、職員間で共有し再発防止に努めています。また、リスクマネジメント等の研修を行っています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	☐		職員会議や研修にて虐待防止について周知徹底しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	☐		契約時に説明のほか、研修等を通し周知徹底しています。	